

九条の会

秋葉区「九条の会」事務局
 新津教育会館内
 新潟市秋葉区善道町2-9-44
 Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692
<http://9jo.iinaa.net/>

「秋葉区九条の会」 結成4周年のつどい

記念講演 金子修 弁護士
 『政権交代後の憲法九条をめぐる諸問題』

月 日 3月14日(日) 14:00 ~

会 場 新津健康センター 学習室 (3階)

政権が交代して国民の間では、期待と不安が混在した状態がつづき、また「普天間基地移設」や「政治とカネ」の問題が毎日テレビや新聞を賑わしています。その影にかくれたようになっていますが、憲法九条をめぐる問題にも危険な状況が生まれています。「国会改革」と称して「内閣法制局長官の答弁を禁止する」と言いますが、そのことが「9条改憲」の道につながっているのです。

「4周年のつどい」では、金子修弁護士から「政権交代後の憲法九条をめぐる諸問題」について記念講演をして頂きます。多数の方の参加をお待ちしています。

プログラム

- 14:00 開会
- 14:10 事務局からの報告
- 14:25 各地域からの報告
 亀田地区憲法9条を守る会
 九条の会・三条
- 15:00 講演 金子修 弁護士
- 16:15 質問
- 16:30 閉会



経歴

新潟県三条市出身 1986年(昭和61年)弁護士登録
 新潟合同法律事務所所属

取り扱い業務

民事事件一般、労働事件(労働者側)、
 医療過誤事件(患者側)、刑事事件一般(少年事件も)
 家事事件(離婚、相続など)

役職等

日本国憲法(特に9条)を守る活動をしている市民団体のメンバー、
 弁護士会の役員

協力券(500円)へのご協力をお願いします

「秋葉区九条の会」の活動資金は、入会金(200円)と寄付金でまかっています。入会金は入会する時だけですから、あとは「寄付金」が活動を支えています。事務局では、会報もできるだけ送料がかからないように努めるなど、経費の節約に努力をしています。

一方、講演会の企画や会報の発行などには、活動資金が必要です。そのために「秋葉区九条の会」の活動を支える『協力券』を500円で発行することにしました。多くの方々のご協力をお願いいたします。尚、「協力券」は講演会の入場券ではありません。後日、事務局でお伺いしますので、よろしく申し上げます。

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなく、平和のメッセージを！

銃後の小国民は軍歌に囲まれていた

岡村守雄（北上）

「金鶏」^{きんし}上がって十五銭 栄えある「光」^{たばこ}三十銭 ……”

昭和 15 年煙草の値上げを嫌って庶民が唄った戯れ歌の出だしです。この年紀元 2600 年を祝う提灯行列や旗行列が、日本の各地で催され日本中がわきかえりました。後に神武天皇と呼ばれた大王が大和の橿原宮^{かしはらのみや}で即位して天皇家の初代となってから 2600 年を経たというので、国民一丸となるためには格好のお祭り計画でありました。西暦より半世紀以上も早い時代で、中国では晋の時代、孔子が生まれた頃という大昔です。日本はまだ世界の歴史には登場していません。だからなおさら小学校一年坊主の頃の私には、日本はえらい古い国なんだと誇りに思える祭りでした。その祝い歌の替え歌でした。

たばこの値上がり後は、きな臭い展開となることが多いようですが、翌、昭和 16 年 12 月には真珠湾のアメリカ艦隊を日本海軍が急襲し、陸軍は香港やマレー半島で大進撃を始めるといふ事件が起きて、第二次世界大戦が始まりました。12 月 8 日の朝大戦の詔書を聞かされるわけです。小学校 3 年の少年は学校の屋内運動場で立ち止まってラジオを聞きました。

さて、日本は中国での戦線が点と線型の展開となって拡大している頃から、庶民生活の場は銃後^{じゅうご}と呼ばれるようになっていました。銃後とは兵隊さんの後押しをする社会のことをいいました。鉄砲の後ろを守る立場です。子供は銃後の小国民とよばれました。

戦線は北はアリューシャンから、西は大きな中国全土に亘り、南方は遠く海の果てまで広がり銃後は忙しくなりました。生活物資は少なくなり、情報も少なくなり、若者も少なくなりました。その頃の皇軍^{こうぐん}（天皇の軍隊）の勇ましい活躍は映画館に入ると見られるニュースか、新聞、ラジオでしか知ることができませんでした。小学校は国民学校と改称されました。そして、世の中に溢れ返るように軍歌の調べが流れ、銃後の庶民はそれを聞いて唄って、見たこともない戦場を想像しました。

軍歌は勇壮で、物悲しく、悲壮感、正義感をつのり、聞く人、唄う人の元気を鼓舞しました。若者には死を恐れず天皇のため、国のために戦えと、銃後の家族には、戦地の兵士が心配しないようにと、奮い立たせる魔力を持っていました。

その頃の軍歌の歌詞を少し覗いてみましょうか。

昭和 12 年製。殆どの人が唄った「愛国行進曲」、

一、見よ東海の空あけて 旭日高く輝けば 天地の正気^{せいぎ}滌刺と 希望は躍る大八洲^{おおやしま}
おお 晴朗^{せいりやう}の朝雲に 聳える富士の姿こそ 金甌^{きんおう}無欠 揺ぎ無き 我が日本の誇りなれ

昭和 14 年の「空の勇士」

一、恩賜^{おんし}の煙草を頂いて 明日は死ぬぞと決めた夜は
曠野の風もなまぐさく ぐっと睨んだ敵空に 星がまたたく二つ三つ
二、すわこそ行けの命^{めい}一 下 さっと羽ばたく荒鷲へ なにを小しやくな群雀^{むらすずめ}

.....

昭和 14 年、「愛馬進軍歌」です。

一、くにを出てから幾月ぞ ともに死ぬ気で この馬と
攻めて進んだ山や河 とった手綱に血が通う

昭和 15 年、「暁に祈る」 涙なしでは唄えません。

一、ああ、あの顔で あの声で 手柄たのむと妻や子が
千切れるほどに振った旗 遠い雲間に また浮かぶ

「海行かば」明治 13 年から唄われていました。

海行かば 水漬くかばね 山行かば 草むす屍
大君の^お辺にこそ死なめ 顧みはせじ

^{おおもとのやかもろ}大伴家持の和歌だそうです。聞く人、唄う人みんな涙をぬぐいきれません。

この歌にまつわる話ですが、平成 8~9 年頃、私が仙台を訪れたことがありました。青葉山の上に護国神社がありました。その階きざしの右横に石塔が立っていて、何気なく読んだのです。こみ上げてくる涙で、しばらくあたりを見ることは出来ませんでした。

海行かば水漬く屍しんというもの 空行くわれは白雲と散る

詠み人は 19 歳の海軍中尉でした。まだ少年といってもいいような若者です。事後二階級特進でもしたのでしょうか。

切りがありませんが、あと二つほど。

昭和 14 年「九段の母」

一、上野駅から九段まで 勝手知らないじれったさ
杖をたよりに一日がかり せがれ来たぞや 会いにきた

この頃になると召集をうける若者が多くなりました。召集されると保険金が出るという出征兵士の家でみんな入っていた保険が払いきれなくなって、会社が潰れたとかという話を聞きました。

大正 12 年、「月月火水木金金」

一、朝だ夜明けだ 潮の息吹
海の男の艦隊勤務 月月火水木金金 (休みなしなのです。)

もっと沢山書きたいのですが、歌詞の出だしだけ幾つか。

- ◆ わが大君に召されたる 命栄えある朝ぼらけ
- ◆ ここはみくにの何百里 はなれて遠き満州の 赤い夕日に照らされて 友は . . .
- ◆ 父よあなたは強かった 兜も焦がす炎熱を
- ◆ 貴様と俺とは同期の桜 同じ兵学校の庭に咲く どうせ散るなら
- ◆ 天に代わりて不義を討つ 忠勇無双のわが兵は 歡呼の声におくられて . . .
- ◆ 勝って来るぞと勇ましく 誓って故郷を出たからは 手柄たてずに

私の手元にまだ沢山の歌詞があります。年配の方で、曲の覚えが上手な人は歌詞を見ればきっと全部唄うことができるでしょう。

軍歌は、戦死は当たり前、という覚悟と諦観を銃後の民と戦地の兵士に押し付け、それを美化して降り注いでいました。軍歌の中に兵隊さんや故郷の家族はよくでてきます、戦友も出てきますが、軍人さんやお役人はあまりでてきません。兵士と軍人は違う人たちなのです。兵士の家族とお役人も違う立場でした。

軍人は軍いく人びとで、合戦の企画や指揮をする人です。兵卒は、字のルーツを考えると、丘の下に人、つまり墓のかたちの「兵」と一生をおわるといふ、「卒」が組み合わさった言葉です。

礼記には、土の没するを「卒」といふ。とあります。庶民のそれは「死」といいます。兵卒は人の中に数えられず、人海戦術の道具でした。日本軍の場合、赤紙一枚で召集出来、馬よりも簡単に集めることができました。

私が 13 歳、中学一年の時戦争が終わりました。その時、昭和 20 年 8 月です。もう 4~5 年たっていたら及ばずながら私も、少年兵に志願していたかも知れません。

昭和 21 年には新憲法ができました。その中に第九条がありました。お陰ですっと今まで、「国際紛争を解決する手段として、戦争はしない。」という国に住むことができました。今 77 歳になります。憲法九条はこれからもずっと、ずっと続いてほしいと思っています。 (2010 年 12 月)